

◆初は吉、後凶し
れ神籤の様な
歸朝藝術家
眼の裏、活佛雪州、拳闘の

乗れぬ事となるかも知れぬ。
嫌なれ神籠通し始め吉後因。
で雪洲も氣の毒だが、元来雪洲
が歸る時分に、鹿配下の活供。
今年の春女子英學熟は、
の那さどしては稀らしく出色な

故國を離れ —日本から桑港まで

Y.K.
△△△○
富加豐横
山賀岡濱
九九九九
十九九八
月月月月
廿五五五
十八八八
日日日日
十九十九
月月月月
十一廿八
十六廿三
日日日

Woodstock Typewriter

The Woodstock Typewriter

タイピストに色々のタイプライターを用ひて文字を書かして御覽なさい。
そして同じタイピストに「ワードスター」を用ひて同じ文字を書かして其結果を比較するか或はこれに智識ある批評家に何れが最も鮮明であるか指摘して貰ひなさい。
其相違ある理由は此ミシンに造込まれて有ります。
(御申込次第實地説明を致し)

英語唱個
鮮魚

人教授
八ミセスカイル
精肉
御菓子卸小賣
桑港テラウス
武田製菓所
バーク二八

和洋食
料細工蒲鉾御津
桑港ボス
電話フキル

雜貨一切
卸却小賣
文に應じ申可候
街一七四七
モア四二九四
魚市場
日本一讀者に限る
左書籍總一割五分引
記提供但し販賣に張
てして尚可あるを以て「品切
」の旨可入用にて「品切

オキシ
登録
本器は
吸引力
をもつ
て、温
暖、解
快感、通
然療法
なく用

アラ

日本新聞社營業部
和大辭典類

酸素療器

124 N. San Pedro
Los Angeles

1601 Post St., S.

通經イーネーフロー 一週分二弐五十粒
二週分四弐五十粒
實驗に効安全にして確實なる通經藥なり。

舖藥

正熊の膽壹個十五弔以上
荷真工不ルギー

大貫春子嬢の出で

鰯占になつた獨唱會

鳴采裡に透通るやうな英語で

娘は此盛大な歓迎を感謝した

藝術に人種的偏見無し

聖公會内の禮音練習會は一時

當市オーヒューム座でマダム・バターフライと英國の鶴明が歌つて非常なる好評を得一週間後にはガーデン・ゲート座に出演する事になつて居たが、歌姫日本少女を父としてアメリカ人を母とする

大貫春子嬢を招待して、娘が得意の絵画をして貢ふ事になつて居たので、同夜九時半に大貫

娘が出演すると云ふ驚告であつたにも拘らず、半ばといへ頃には小さい聖公會の礼堂で、交響室講義堂は勿論座下まで會衆でギラント詠

つたが、多數の人はサイドウォークに立つたり、詠らめて歸つたの

にも拘らず、あつた位で小さな場内に入り得た。

聽衆は四百人近くもあつたが、多くは、子供の春子嬢が

心努力して遂に今月の盛名を博したるは在来開花の同の詠

りである。云々後に至つて質

に着いたのは十時廿分頃たつたが待ち構へてゐた會衆は割れる

やうな拍手を以て歓迎した平塚

春子嬢は、英語で娘を紹介し追

れて居る在米の子供の春子嬢が

ヒューム座を打つて留め置かれた。

確定の時間よりは遅れ、聖公會に

つたが、英語で娘を紹介し追

れて居る在米の子供の春子嬢が

ヒューム座を打つて留め置かれた。

上達に努める積りでござります

私の名が加州有名の藝人

九人中の最上部に書かれた事實

は實力で詠の眞理を敬意する音

がオーヒューム座に出演します

太洋沿岸にのみ行はれ

偏見を稱すべきものは無く若し

やむしまして殆ど氣の付かぬものであります當市に至るは

世界音樂家の間などに個人的の

物であつまして中部に處する

がオーヒューム座に演出します

太洋沿岸にのみ行はれ

日本經濟聯盟成立

軍閥に代る財閥の專横乎

眞瀬蘇佛

(香港)

(四) 一月九日 星期四

年

九

八

九

十

九

百

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百零一

一百零二

一百零三

一百零四

一百零五

一百零六

一百零七

一百零八

一百零九

一百零十

一百零十一

一百零十二

一百零十三

一百零十四

一百零十五

一百零十六

一百零十七

一百零十八

一百零十九

一百零二十

一百零二十一

一百零二十二

一百零二十三

一百零二十四

一百零二十五

一百零二十六

一百零二十七

一百零二十八

一百零二十九

一百零三十

一百零三十一

一百零三十二

一百零三十三

一百零三十四

一百零三十五

一百零三十六

一百零三十七

一百零三十八

一百零三十九

一百零四十

一百零四十一

一百零四十二

一百零四十三

一百零四十四

一百零四十五

一百零四十六

一百零四十七

一百零四十八

一百零四十九

一百零五十

一百零五十一

一百零五十二

一百零五十三

一百零五十四

一百零五十五

一百零五十六

一百零五十七

一百零五十八

一百零五十九

一百零六十

一百零六十一

一百零六十二

一百零六十三

一百零六十四

一百零六十五

一百零六十六

一百零六十七

一百零六十八

一百零六十九

一百零七十

一百零七十一

一百零七十二

一百零七十三

一百零七十四

一百零七十五

一百零七十六

一百零七十七

一百零七十八

一百零七十九

一百零八十

一百零八十一

一百零八十二

一百零八十三

一百零八十四

一百零八十五

一百零八十六

一百零八十七

一百零八十八

一百零八十九

一百零九十一

一百零九十二

一百零九十三

一百零九十四

一百零九十五

小夜

寺澤琴風

雨宮寫眞館

桑港櫻府

日本行

日曜月日正月

年九月四日

（八）

年九月四日

（九）

年九月四日

（十）

年九月四日

（十一）

年九月四日

（十二）

年九月四日

（十三）

年九月四日

（十四）

年九月四日

（十五）

年九月四日

（十六）

年九月四日

（十七）

年九月四日

（十八）

年九月四日

（十九）

年九月四日

（二十）

年九月四日

（二十一）

年九月四日

（二十二）

年九月四日

（二十三）

年九月四日

（二十四）

年九月四日

（二十五）

年九月四日

（二十六）

年九月四日

（二十七）

年九月四日

（二十八）

年九月四日

（二十九）

年九月四日

（三十）

年九月四日

（三十一）

年九月四日

（三十二）

年九月四日

（三十三）

年九月四日

（三十四）

年九月四日

（三十五）

年九月四日

（三十六）

年九月四日

（三十七）

年九月四日

（三十八）

年九月四日

（三十九）

年九月四日

（四十）

年九月四日

（四十一）

年九月四日

（四十二）

年九月四日

（四十三）

年九月四日

（四十四）

年九月四日

（四十五）

年九月四日

（四十六）

年九月四日

（四十七）

年九月四日

（四十八）

年九月四日

（四十九）

年九月四日

（五十）

年九月四日

（五十一）

年九月四日

（五十二）

年九月四日

（五十三）

年九月四日

（五十四）

年九月四日

（五十五）

年九月四日

（五十六）

年九月四日

（五十七）

年九月四日

（五十八）

年九月四日

（五十九）

年九月四日

（六十）

年九月四日

（六十一）

年九月四日

（六十二）

年九月四日

（六十三）

年九月四日

（六十四）

年九月四日

（六十五）

年九月四日

（六十六）

年九月四日

（六十七）

年九月四日

（六十八）

年九月四日

（六十九）

年九月四日

（七十）

年九月四日

（七十一）

年九月四日

（七十二）

年九月四日

（七十三）

年九月四日

（七十四）

年九月四日

（七十五）

年九月四日

（七十六）

年九月四日

（七十七）

年九月四日

（七十八）

年九月四日

（七十九）

年九月四日

（八十）

年九月四日

（八十一）

年九月四日

（八十二）

年九月四日

（八十三）

年九月四日

（八十四）

年九月四日

（八十五）

年九月四日

（八十六）

年九月四日

（八十七）

年九月四日

（八十八）

年九月四日

（八十九）

年九月四日

（九十）

年九月四日

（九十一）

年九月四日

（九十二）

年九月四日

（九十三）

年九月四日

（九十四）

年九月四日

（九十五）

年九月四日

（九十六）

年九月四日

（九十七）

年九月四日

（九十八）

年九月四日

（九十九）

年九月四日

（一百）

年九月四日

（一百一）

年九月四日

（一百二）

年九月四日

（一百三）

年九月四日

（一百四）

年九月四日

（一百五）